

博士(医学) 安田 孝子

論文題目

Postpartum smoking relapse among women who quit during pregnancy: cross-sectional study in Japan

(妊娠中に禁煙した女性の出産後の再喫煙: 日本における横断研究)

論文審査の結果の要旨

妊娠中の喫煙は胎児の発育不全、流産、早産、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離の発生と関係する。妊娠中の喫煙率について日本においては妊婦の 7.5～15%程度とされている。一方、産褥期の喫煙は児の乳幼児突然死症候群、喘息、肥満、各種呼吸器疾患の発生と関連するが、産褥期に喫煙に関しての報告は少ない。特に妊娠中に禁煙をしていたものの、産褥期に喫煙を再開する褥婦が多いことが医療関係者の印象として存在していたが、産褥期の再喫煙に関する具体的研究は今までなかった。申請者らは全国規模の多数の症例で産褥期の再喫煙及びその要因を明らかにすべく以下の検討を行った。日本の全市町村から無作為に抽出した分娩後の女性 20,601 人に自記式質問紙調査を行った。その中で妊娠中に禁煙した女性 2,135 人の出産後の再喫煙について分析した。

申請者らは以下の結果を得た。妊娠中に禁煙した女性の出産後の再喫煙率は 41.0 %であった。調査時期別の再喫煙率は、出産後 3～4 か月 22.5 %、出産後 18 か月 43.5 %、出産後 36 か月 51.4 %であり、出産後の時期と再喫煙率には有意な関連がみられた。出産後に再喫煙の可能性を有意に低くする要因のオッズ比は、「女性がゆったりとした気分で子どもと過ごす時間がある」0.72 (0.60-0.88)、「子育ての相談をインターネットでする」0.67 (0.47-0.94)、「女性が妊娠判明時に飲酒をしている」0.73 (0.61-0.88)であった。再喫煙を高める要因については、「妊娠判明時のパートナーの喫煙」1.60 (1.19-2.16)、「妊娠中のパートナーの喫煙」2.11 (1.66-2.68)、「出産後のパートナーの喫煙」3.37 (2.61-4.35)であった。本研究により全国規模における出産後の再喫煙の実態が初めて明らかにされた。また再喫煙の要因も明らかになり今後の禁煙対策の方向性を示す貴重な研究であると審査員全員一致で高く評価した。以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者 主査 金山 尚裕

副査 須田 隆文 副査 永田 年